

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.36 2015/04/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

陽春の候、ますます御
健勝のこととお慶び申し
上げます。

平素より子ども達へのご
理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんは**プルス・ウルトラ**(Plus Ultra)
という言葉をご存じでしょうか。

神聖ローマ帝国で、およそ800年間続いた
ハプスブルク王朝の歴史のなかで、最大の影響
力と版図を治めたカール五世がモットーにし
ていた標語で「もっと先へ」「さらなる前進」
という意味だそうです。語源は、ローマ神話で
ヘルクレスがジブラルタル海峡に建てたとさ
れる柱に刻まれた「ここから先にはなにもな
い」という警句をもじったものと云われていま
す。現代でも、スペインの国旗や国章に用いら
れていますので、ヨーロッパではよく知られた
フレーズようです。

当時、南北アメリカ大陸が発見され、多くの
探検家や船乗りが海を越えて新世界を目指す
ときにめばえたかもしれない怖れを抑え、リス
クをとって冒険する雰囲気醸成するため
には、うってつけの標語だったのかもしれません。

私たちが、和歌山県で初めて自立援助ホーム
を開設して、今年度で8年目になります。昨年
は女子のホームも設け、社会的養護下の子ども
達の自立を支えるために、微力を尽くしてきた
7年間でした。

はじめて自立援助ホームをつくろうと思っ
たとき、相談した方のなかには運営の難しさや
リスクを考えると、熟慮したほうがいいと忠告
をいただくこともありました。にもかかわらず、
今日まで歩みを止めずにこれたのは、私もこの
プルス・ウルトラというモットーが大好きであ

ったからかもしれません。

「先にはなにもない」からもう進まないでい
いと言われても、自分で確認もしないで止まる
ことはできません。もっと先に、なにか素晴ら
しいものがあるかもしれないからです。

子ども達は、それぞれに困難な課題をかかえ
てホームにやってきて、その課題を解決しきる
前に巣立っていくことが多いのですが、私は心
配はしていても絶望はしていません。子ども達
の前途には未知の世界が広がっていて、常に
「もっと先へ」と突き進んでいけば、いつかは
道が拓けるのではないかと考えています。

なぜなら、私自身が「その先」を見たくて、
つつい自立援助ホームから離れられずにい
るからです。

わだちの家 職員
藤村里恵

はじめまして。昨年5月よりお世話になっ
ております藤村と申します。よろしくお願いいたします。

さて、子ども達の食事を作っていて感じるこ
とですが、食べ物の好き嫌いが激しく偏食気味
の子が多いようです。そこで、どのように調
理・加工すれば嫌いな食材を一つでも減らせる
かを毎食のテーマとして試行錯誤しながら取
り組んでおります。

子ども達には、いま現在の自分の身体だけ
ではなく、将来の自分の身体のために、栄養バ
ランスのとれた食事を心がけてほしいと願っ
ています。

「食事」とは、単にお腹を満たすだけのもの
ではなく、心にも栄養を与え、充実した毎日
を過ごすための根本でもあると考えています。そ
の食事を通して、子ども達とより良い関係を築
いていければ嬉しいです。

私はこの一年間で、様々な出会いと別れを経

験し、大学時代に教わった「教育とは教えることではなく教わることだ」という言葉を思い出しています。「自分は子ども達からたくさんのことを学ばせてもらったけれど、果たして自分は子ども達に何かを発信できたのだろうか」と自分に問い続ける毎日です。

まだまだ未熟者ですが、川口施設長はじめ先輩職員の皆さんにお導きいただきながら精進して参りたいと存じます。

児童養護施設退所者等アフターケア事業
担当職員 田中恵美

いよいよ新年度が始まろうとしています。昨年度は前任担当者より引継ぎ、手探り状態でスタートした一年でしたが、何とか無事終えることが出来ました。これもひとえに皆様のお力添え、ご協力のおかげと感謝しております。

さて、平成 26 年度の児童養護施設退所児童は 21 名でした。今後も、この子どもたちと一人でも多く、細くでもいいので関係が切れることなく、つながり続けられる様努力して参ります。もちろん、私たちとのつながりより、もっと素晴らしいつながりが持てる仲間等に出会えることを願いつつ。

また、昨年度は関係作りのため、多くの子どもたちや施設職員の方達とお会いする機会をいただきました。同時に、連携先開拓のため多方面の方とも出会う機会を多くいただきました。そういった方々とお会いする中で感じたのが、当法人の事業である自立援助ホームやアフターケア事業について説明させていただく際に、もちろん私の伝え方が不十分なのだと思いますが、少なくない方々が子どもたちの事を「かわいそうな子どもたち」と表現されるのです。確かに親の援助が受けられない等、不適切な養育環境にあったために社会的養護につながった子どもたちかもしれませんが、決して“かわいそう”なのではないと思います。私は、その言葉を聞くと違和感を覚えるのです。

子どもたちがどこで誰と暮らし育つにしても、周囲の人たちと関わりながら、社会が責任を持って育てる。微力ながら私も、その社会の内の一人でありたいと思っています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

わだちの家在籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
1 月	人数		2	2	1	1
2 月	人数		1	1		1
3 月	人数			1		1

※全員男子です

わが家の子ども達

M 太：1 月に退所しました。家族の支援を受け、ひとり暮らしを始めます。

R 太：運送関係の会社でようやく就労が安定してきました。

T 太：家族と暮らすために 1 月に退所しました。

V 太：自立訓練のために 1 月からステップハウスで暮らし、3 月に委託措置は解除しましたが、支援は継続しています。

X 太：年末年始にいろいろありまして、家族と暮らすために 2 月に退所しました。

Y 太：1 月に就労先の住居に転居しました。

つぼみの家在籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20 歳 以上
1 月	人数			1	1		
2 月	人数			1	1		
3 月	人数		1	1			

※全員女子です

わが家の子ども達

A 子：家族と暮らすために退所しました。

C 子：福祉施設での就労も安定し、ヘルパーの資格取得に挑戦中です。

D 子：急遽一時保護で受入れ、そのまま入所になりました。現在、飲食店で就労中。

E 子：3 月に入所になりました。通信制高校に通いながら就労自立を目指します。

F 子：3 月に高校卒業し入所。4 月から病院で勤務の予定。

G 子：同じく 3 月に入所。スーパーですでに就労中です。

1～3月のわだちの家とつぼみの家

1/20 わだちの家とつぼみの家の運営について県の指導監査を受けました。
(指摘事項、特になし)

- 1/24 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)
性教育(男子)を実施。
- 1/29 和歌山県の基幹的職員研修に川口、
～30 田中・阿部職員がオブザーバー参加。
- 1/31 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)
性教育(女子)を実施。
- 2/5 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の
～6 職員研修会に川口と田中職員が参加。
- 2/23 和歌山県児童養護施設協議会の職員
研修会に川口と田中、阿部職員が参加。
- 3/4 NPO法人の理事会で事業報告。
- 3/12 和歌山県児童養護施設協議会の常任
委員会に川口が出席。
- 3/15 和歌山子どもの虐待防止協会の公開
講演として「human note」のコンサ
ートを開催し、川口が参加。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・
ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただ
き誠にありがとうございます。

- 1月1日より3月31日までの寄附金
菱岡工業株式会社様
- 1月1日より3月31日までの寄附物品
前原壮行様、川島寛子様、匿名希望様
- 1月1日より3月31日までの援助基金
片岡啓様

○援助基金会計報告(1/1～3/31)

収入の部

援助基金 5,000 円

受取利息 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 80 円

3月末残高

225,176 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写
しをもって領収書に代えさせていただきます。特に
領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、
その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、
宜しくお願い申し上げます。

編集後記

私が子どもの頃の世のなかはもっと
シンプルだった。最近よくそう思いま
す。世界は米ソの冷戦で二つの勢力に分
かれ、たえず戦争の脅威にさらされてい
ましたが、今のようにテロが横行し、い
つどこで平和が破られるかわからない
理不尽さとは無縁だった気がします。

子どもの世界でも、スマホや携帯ゲー
ム機が登場し、比類のない刺激を子ども
達の心にたえまなく注ぎ込んでいます。

こんな時代に子ども達を育ててゆく
のはとても困難な気がしますが、有史以
来、私たちの先人達も同様の悩みをかか
えながら、現代に続く文明を育ててきた
のでしょう。

大切なのは後戻りすることではなく、
半歩づつでも前へ進み続けることでは
ないかと思っています。

さて、これからも、自立援助ホームの
様子はもちろん、本県の子どもたちを取り
巻く状況などもこの「わだち通信」で
お知らせして、皆様のご支援ご声援を賜
り、子どもたちの自立への一助となるよ
う、なお一層精進いたしたいと思いま
す。今後ともご指導くださいますようお
願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方
にご理解いただき、入居初期の生活が軌
道にのるまでのホーム費や資格取得な
ど子どもたちの自立支援に役立てるた
めの援助基金を募っています。ご賛同い
ただける方は、以下の口座へのご支援を
よろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました
方々に、心からの感謝と御礼を申し上げ
ます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.37 2015/07/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364

わだちの家 施設長
川口充紀



盛夏の候、ますます御
健勝のこととお慶び申し
上げます。

平素より子ども達へのご
理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現代の都会の夜は、昼間と見紛うほど明るい
ですが、19世紀末の日本の夜は真っ暗な闇の世
界だったことでしょう。

そんな江戸末期に、産業革命を経て、蒸気機
関に代表される進んだ科学技術を手にした西洋
諸国が力ずくで開国を迫ったことが発端となっ
て明治維新になったのはご承知のとおりです。

その原動力になったのが、長州藩や薩摩藩で
すが、この二藩はもともと相反する立場にあっ
たうえに、「禁門の変」によって決定的に敵対し
ていました。

このように、とても仲の悪かった長州と薩摩
ですが、共通していることがありました。それ
が下関戦争と薩英戦争です。二藩はイギリスと
戦うことで、当時の欧米諸国と争うことの無謀
さに気づき、イギリスも日本の地方政権にすぎ
ないと思っていた長州や薩摩の侮れないことを
知って、両者（イギリスと薩長）はその後急速
に接近していくことになります。『日本史』でお
馴染みのエピソードですよ。

私がこの逸話を耳にするときに想起するのは、
奇妙に聞こえるかもしれませんが、『週間少年ジ
ャンプ』の編集方針である「友情」「努力」「勝
利」です。

少年ジャンプと云えば、「ドラゴンボール」や
最近では、「ワンピース」など有名な漫画を多く
連載しています。その主人公たちは、自分より
強大な敵を倒すために努力して、接戦を制して
勝利するのですが、まれに「拳を交える」こと
で互いを理解しあい、友情を育むことがあり、

それが人気の秘密になっていたりします。

さすがに漫画のようにはいきませんが、歴史
上でも戦いを通じて相互理解にいたり、その後、
友好を保つ例が散見されますが、先のエピソード
もそのひとつですね。（しかし、戦争は絶対に
いけません。）

さて、自立援助ホームでは、様々な背景をも
った子どもたちを受け入れていますので、なか
には、対応の難しい行動をとる子もいます。場
合によっては受容的な関わりだけでは充分でな
く、軋轢を覚悟で厳しさをもって向き合うこと
も大切になってきます。もちろん、「拳を交え」
るわけにはいきませんから、相手の立場に配慮
した対話の積み重ねが唯一の武器です。

時には、鋭い舌戦が繰り広げられることもあ
りますが、双方が真剣に向き合うことで、心の
琴線に触れ、ある種の信頼関係を築けばいい
なと思っています。実は、私はこれを密かに「ジ
ャンプ効果」と名付けて、その一瞬の訪れを心
待ちにしているのです。（笑）

わだちの家 職員
菊山麻美

今から5年ほど前、あるミュージシャンの20
周年ライブでの話です。彼が大学卒業する時、
母親に「あんたなあ、好きにしたらええけど、
他人様には迷惑かけんときや」と言われたそう
です。世の母親の多くが、わが子に言う言葉で
すよね。

もちろん素直に「はい。」と彼は答えたので
すが、思い返してみると、この20年、自分の
人生は誰かに迷惑かけたり、かけられたりの繰
り返しだった。でも、人に迷惑をかけないで生
きていくのは、もしかすると、人と関わり合い
が少ない寂しい人生かも知れない。それだっ
たら、せめて迷惑をかけているということくらい
は自覚しつつ、感謝しつつ、迷惑かけたり、か
けられたりして、これからもやっていこうかな、
と思っている、と。

この話を思い出すきっかけが、4月の新人研修でありました。

「いい感じに、誰かに頼ったり頼られたりできる関係の人がいるということ、自立といいます。」

「自立」というと、「ひとりだち」のことであるから、「頼る」という言葉は相反するものと思いがちだけれども、誰かに頼ってはダメなんてことはないんだ。でも同時に、頼られる人間にもなること。

この川口施設長の言う「自立」の定義を、わだちでの日々の暮らしの中で、少しずつでも子どもたちに伝えていきたいなあと感じました。

また、「いい感じに」という距離感を理解させる事が、一番難しいことと思いますが、何年か先でもいいから、子どもたち自身が感じ取れるようになればいいなと、その手助けを担っていきたくて考えています。

つぼみの家 職員 上西佑季

はじめまして。4月からつぼみの家の職員となりました上西と申します。

新卒での採用ということもあり、自立援助ホームどころか“働く”ということ自体が初めての体験でもあります。そういった点において、つぼみの家で暮らす子どもたちの方が“働く”ことの先輩とも言えます。

子どもたちと年齢が近い分、相手に近い視点で物事を考え・感じられ、子どもたちにとって話しやすい相手となるように、でも、子どもたちよりほんの少しだけ長く生きている分、ささやかですが人生の先輩として、子どもたちが様々な視点を持てるお手伝いが出来れば...そういった気持ちで頑張っていきたいと思っています。

子どもたちとの関わりでは、どのような接し方をするか、どのような声掛けをするか、常にその選択のひとつひとつに悩み、深く考えさせられます。自分にできることは何かを考え、今出来る最善の行動をすることはもちろんですが、その結果に満足せずに「本当にこれでよかったのか」まで考え、次のステップに繋がられるよう努力していきたいと思います。

わだちの家の在籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
4月	人数			1		
5月	人数		1	1	1	
6月	人数		1	1	1	

※全員男子です

わが家の子ども達

R太：これまでになく就労も安定し、少しずつ貯金も出来てきました。

W太：昨秋に退居したものの、生活が立ち行かず、4月から改めて入居することに。

Z太：2か月ほどの入居の後、家族のもとへ。

a男：6月に入居し、介護の仕事で自立を目指します。

つぼみの家の在籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20歳 以上
4月	人数		1	1	3		
5月	人数			1	3		
6月	人数			1	3		

※全員女子です

わが家の子ども達

C子：ヘルパー資格の取得まであと一息です。

D子：急遽一時保護で受入れ、そのまま入居になりましたが、安定した就労には至らず、家族のもとに帰りました。

E子：通信制高校に通いつつ、2つの仕事を掛け持ちして頑張っています。

F子：短い期間に入退居を繰り返し、半歩ずつ自立に近づいている感じです

G子：集団生活に馴染まず、一人暮らしをしながら自立を目指すことになりました。

H子：6月に入居し、ただいま求職中です。

4～6月のわだちの家とつぼみの家

4/11 イオンイエローレシートキャンペーンの贈呈式に川口が出席しました。

4/23 和歌山県児童養護施設協議会の総会～24 職員研修会に川口、田中・上西職員が参加しました。

4/27 全国自立援助ホーム協議会の総会・～28 ホーム長研修会に川口が参加。

- 5/3 アフターケア事業として退所児童との交流会（バーベキュー）を実施。
- 5/9 NPO法人の理事会を開き、総会審議事項について話し合う。
- 5/17 NPO法人の総会で事業承認を頂く。
- 6/4 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の～5 総会研修会に川口と田中・尾崎職員が参加。
- 6/12 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）職員向け性教育を実施。
- 6/18 里親支援センターなどでこの研修会に川口と田中職員が参加。
- 6/29 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が出席。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 4月1日より6月30日までの寄附金
菅田美代様
- 4月1日より6月30日までの寄附物品
和歌山乳児院様、匿名希望様
- 4月1日より6月30日までの援助基金
山本彰宏様、水城実様、前原壮行様

○援助基金会計報告（4/1～6/30）

収入の部

援助基金	16,000 円
受取利息	13 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金	0 円
-----------------	-----

振替手数料	260 円
-------	-------

6 月末残高

240,929 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

私の大学での専攻が中国文学だったからというわけでもないのですが、昔から中国の歴史は大好きでした。

でも、困るのは、中国の歴史は南北朝の北魏と梁であれ、北斉と北周、金と宋であれ、いつも英明な君主が国を建て、その子孫の愚かな暴君が国を乱して、他国に攻められる、それを優秀な臣下が、多数の犠牲の上に防衛するが、結局はその国は滅び、新しい英雄によって新王朝が築かれるというお決まりのパターンばかりで、国名や人名が紛らわしく、覚えにくいのです。

過去から学んでいるはずなのに、結局同じことを繰り返す。これは人間の業というものなのかもしれません。

せめて現代の私たちは、もう少し賢くありたいものです。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻く状況などもこの「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

（援助基金のお願い）

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.38 2015/10/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

金風の候、ますます御
健勝のこととお慶び申し
上げます。

平素より子ども達へのご
理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「初心忘るべからず」という言葉は知っ
ていても、誰の言葉かを知っている人は意外と
少ないと思います。これは室町時代初期に「能」
を大成し多くの作品を残した世阿弥が伝書「花
鏡」(かきょう)の中で述べた言葉で、一般的に
は、「初めのころの気持ちを忘れずに真摯に物事
に取り組む」ことと解されていますが、実はも
っと深い意味があるようです。

「花鏡」奥段には、

『しかれば当流に万能一徳の一句あり。 初心
忘るべからず。この句、三箇条の口伝あり。

是非の初心忘るべからず

時々の初心忘るべからず

老後の初心忘るべからず 』とあります。

この一節から分かるように、世阿弥の云う「初
心」とは「初めの志」のようなポジティブなも
のではなくて、人生の各段階で経験する芸の未
熟さのことを指しています。

初心者のころに無様に失敗した経験や赤面し
た想い、屈辱に震えた日々を忘れず、常に自ら
を戒めることが出来れば、人は少しずつでも成
長していきます。だから、初心を忘れたら、も
う一度初心に戻ることが大事と説いているよう
です。

また、初心を忘れないということは、人生の
それぞれの段階で得たものを年齢とともに捨て
て忘れるのではなく、いつまでも大切に取っ
ておいて、時々取り出してみることで、人とし
ての幅や奥行きが増すものだを教えてくれている

ように思います。

世阿弥はまた、「秘すれば花なり」と云う言葉
も残しています。その詳細は省きますが、この
「花」もまた興味深いです。いつの時代も、修
行をはじめて何年かすると芸に落ち着きがでて、
周囲からすごい新人が現れたと褒めそやされたり
もしますが、それは本当の実力(花)とは云
えないようです。若者は、ただ若いと云うだけ
で素晴らしく、その見かけの華々しさが欠点を
隠してくれますが、しょせん一時的なものにす
ぎません。

それを勘違いして自分の実力と思い、のぼせ
ているのはあさましいですよと警告し、そんな
時こそ初心に戻りなさいとも教えてくれている
ような気がします。

自立援助ホームにやって来る子どもたちは、
思春期の只中で就労し、経験を積み重ねながら
社会へと巣立って行きます。二十代も半ばにな
れば、一端の社会人です。

でも、そんな時こそ「時々の初心」に立ち戻
らなければならないのに、今の世の中では、彼
らが安心して初心に帰れる環境が整っていると
は云い難い気がします。

私たちのホームが、彼らにとっての実家のよう
になり、初心に戻れる場所として、人生の花
を咲かせ続ける種を育てるところであればいい
なと思っています。

わだちの家 職員

藤田龍士

初めてわだち通信を書かせていただくことに
なりました。わだちの家職員の藤田と申します。

早速ですが、私は幼少期からボーイスカウト
活動(BS活動)に参加しています。

活動に参加されていない方のBSに対するイ
メージは『野外活動と奉仕活動をただ単に行っ
ている団体』と云うのが大半のようです。簡単
に説明をしますと、『より良き社会人の育成』を
目標にして、幼稚園年代～大学生年代の参加者

(スカウト)が年代ごとに『活動目標』と『教育のねらい』を設けて、それに基づいて野外活動をメインに教育を行っている団体です。

私自身もスカウト活動時代はそんなことを意識することなく勢いのまま活動を行っており、スカウトから指導者になって初めてそのようなことを教えていただいた時に、とても驚き感動したのを覚えています。

それはわだちの家でも同じでした。わだちの家でお世話になり始めの時は、右も左もわからないまま、ただがむしゃらに自分なりのやり方でしていました。子どもたちの意見を聞いているようで結局は私の意見や経験則を押し付ける形で終わっていましたので、子どもたちとよく衝突しました。

その頃に比べると最近は衝突する回数も少なくなりました。これも子どもとの関わりから気付かせてもらったことを他の職員に相談した際に助言してもらったおかげだと思います。

これからも未熟な知識と経験しかない私ですが、『知・覚・動・考(とも・かく・うご・こう)』を合言葉に、歩みを止めずに精進していきたいと思っています。

つぼみの家 職員 尾崎初美

はじめまして、4月からつぼみの家の職員になりました最年長新人の尾崎です。

分からないことだらけだった入職時から6ヶ月が経ち、やっと慣れてきたとはいえ、まだまだ先輩の職員さんに追いつくこともできませんが、折にふれ子どもたちとの距離も少しは縮めることができたかなと嬉しく思ったり、あの時はあの言葉かけで良かったのかなと悩んだりの日々を送り悪戦苦闘しています。

そんな中でも自分なりに最善を尽くして、子どもたちに接する努力をしていきたいと思っています。

また私自身もいつも心にとめていますが、接する他者への発言や態度に注意し謙虚でいることを心がけ、自分の良心に反することをしない人になってほしいという思いが伝わる様に接しながら、自立に向けて頑張っている子どもたちのサポートができればと考えております。

今後とも どうぞよろしくお願い致します。

わだちの家の在籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
7月	人数	1		1	1	
8月	人数	1		1	1	
9月	人数			1	1	

※全員男子です

わが家の子ども達

R太：安定した就労と着実な貯金に成長の手応えを感じます。

W太：考えすぎて「石橋を壊して落ちる」タイプの失敗経験を連続体験中です。

a男：親元を離れて自立を目指してみたものの、結局は親元に帰ることに。

b男：生活をたて直し自立するために里親さん宅から9月に入居、ただいま求職中。

つぼみの家の在籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20歳 以上
7月	人数	1		1	2		
8月	人数		1	1	2		
9月	人数		1	1	2		

※全員女子です

わが家の子ども達

C子：ヘルパー資格を取得し通信制高校にも編入しましたが…対人関係に課題も！

E子：欠勤から出社拒否。通信制高校も休みがちで、どうなることかと思っていましたが、次の仕事も決まり、ようやくギアが入るのか？

F子：短期間に入退居を繰り返し、最近では失敗から学ぶより、開き直るような言動もみられ、少々先々が心配です。

H子：仕事が決まった矢先に家出して、結局は親元に帰ることになりました。

I子：就労自立を希望して7月に入居。早々に仕事も見つけ、今の目標はスマホを持つことみたいです。

7～9月のわだちの家とつぼみの家

7/06 全自協調査研究部会と北海道大学大学院の松本先生との合同会合に川口が出席しました。

- 7/09 里親支援センターなでしこの研修会で川口が講演しました。
- 毎月/11 イオンイエローレシートキャンペーン
- 7/23 地域若者支援連絡会議(わかやま地区)に川口と田中職員が出席しました。
- 7/27 全自協・女性スタッフ研修に菊山職員と～28 阿部職員が参加しました。
- 7/30 全自協近畿・東海地区の交流会に川口と田中職員が参加しました。
- 8/18 アフターケア事業恒例の夏季一泊研修～19 をダイワロイネットホテルで実施し、23 人の児童が参加しました。
- 8/27 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が出席。
- 9/10 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の職員研修に川口、田中・藤村職員が参加。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 7月1日より9月30日までの寄附金
- 7月1日より9月30日までの寄附物品
嶋倉様、和歌山乳児院様、
フードバンク和歌山様、匿名希望様
- 7月1日より9月30日までの援助基金
水城実様、匿名希望様

○援助基金会計報告(7/1～9/30)

収入の部

援助基金 10,000 円

受取利息 0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 260 円

9月末残高

250,669 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

わだちの家を開設する1年くらい前でしたか、「KY」(空気を読む)という言葉が世間の注目を集めました。昨今の国会周辺のドタバタを見ていると、つくづく私たち日本人は空気に敏感な民族なんだと考えさせられます。

先日も、ホームの子と今後について話していると、「自分というものがないので、ついつい誰かの意思に引きずられて、失敗を繰り返してしまう」と云う趣旨のことを言っていて不安がっていました。その場の雰囲気や状況を察するのはいいのですが、自分に対する信頼や判断力が身についていないと、適切に行動することは難しいようです。空気を読むよりも、自分の頭で考え、動ける人になってほしいのですが、どうすればうまく伝えられるか試行錯誤の連続です。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻く状況などもこの「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.39 2016/01/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

新春の候、ますます御
健勝のこととお慶び申し
上げます。

平素より子ども達へ
のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は「きょうだい占い」がそこそ
話題になりましたね。兄弟姉妹という生まれて
きた順番で、性格や恋愛の傾向、はては結婚後
の相性まで判るのだとか。

私は、星座や血液型といった占いの類はま
たく信用していないのですが、この「きょうだ
い型」については、なるほどそうかもしれない
と納得してしまうところがあるのです。

たとえば、第一子（最初っ子）は、子育てが
未経験の親の愛情を一身に受けて育つため、家
族の中に確かな居場所がありますが、第二子以
降は、上の子と同じだけ親の愛情や時間、お金
をかけてもらうためには、兄や姉と同じことを
してはダメで、もっと違うことをしようと
するものだということです。

つまり、下の子は自分のポジションを自力で
勝ち取っていかなければならないわけで、それ
だけで既に第一子とは異なる性格になりそうな
気がしませんか。

最初っ子は、家族からの期待を背負い、その
ことを自覚していることから、手堅く真面目な
性格になることが多いようで、「末っ子」は兄や
姉を観察し要領よく振る舞うことから明るい性
格の人が多く、スポーツの分野で活躍する選手
には末っ子が目立ちます。

また、中間子（あいだっ子）は上や下の兄弟
姉妹をよく見ているので、しっかりと自己を確
立していて、調整能力に長けていることが多く、
政界や経済界で活躍するのはこのタイプです。

さらに、一人っ子では、子ども時代に競争相

手がいなかったために、「人の気持ちがわからな
い」傾向があり、自分の感情を表現するのが苦
手だったり、寂しがり屋でわがままなところも
あるようです。

自立援助ホームにやって来る子どもたちのき
ょうだい構成はもう少し複雑なこともあるので
すが、このように、育った環境や生まれ順によ
る特性を知っておくことは、その子との関わり
方について考えるうえで有効な手段になるかも
しれません。

「きょうだい」がいても実質的には一人っ子
のような育ちの子もいるかもしれませんが、支
援する側のきょうだい型と子どもたちの型との
相性が重要になる可能性もありますし、きょう
だいの差異化を図ることで、本人のやる気を引
き出すこともできるかもしれませんからね。

わだちの家 職員
藤村里恵

以前、ご縁があって韓国人大学生をホームス
テイで受け入れたことがあります。

その後彼は、ワーキングホリデーを利用して
再来日しましたが、その時の持ち物は、数万円
の所持金と数点の身の回り品だけでした。

私が青年に「不安はないのですか」と老婆心
ながら尋ねると、彼は「今日の心配は明日、明
日の心配は明後日します。勇気を持って一歩だ
け前進すれば、人生は開けるのです。」と答えま
した。「何故そのような姿勢でいられるのです
か」と聞いたところ、「僕には夢があります。そ
の夢を叶える為に今があるのです。」と教えてく
れました。

自分の夢に向かって積極的にチャレンジする
その姿に私は非常に強い感銘を受けました。

そのように彼を動かしているものは、やはり
「若さ」という大きなエネルギーなのだろうと
思います。わだちの子ども達もその素晴らしい
エネルギーを持っているのですから、様々な経

験を通して自己を確立し、夢を叶える努力を惜しむことなく、社会へ羽ばたいてほしいと願ってやみません。

彼らが安心して未来へと進んでいけるように私達職員はこれからも「いつも見守っています」というメッセージを心から発信していきたいと思います。

つぼみの家 ホーム長
平山弥生

自立援助ホームは「最後の砦」なんだという講演を拝聴したことがあります。

「サイゴ ノ トリデ」

最後という言葉にも少し違和感を感じながら、私は「トリデ」に引っかかりを感じました。

「砦」を辞書で調べると、小規模な要塞、柵をめぐらし、内に兵営を置く。また外敵を防衛、攻撃する為に国境・海岸などに築造する堅固な建造物とあります。

つまり砦とは、戦さに於ける重要な拠点であるのです。仰々しい感じがして、とても日常会話に出てきそうにない言葉のように思われ、馴染めませんが、しかし、一寸先は闇、先の事は予知できず、どう転ぶかわかりません。

今の時代に、明るい未来を信じて生きている人なんてどれくらいいるのでしょうか？

だとすると、厳しい社会を生き抜いていくのは、正に戦さに挑む一人一人が戦士であります。

ならば、戦士には鎧が必要です。立派な固い鎧から映画のエキストラが着用する厚手の綿入れベストの様な、どんな矢でも突き抜けそうなちゃんな物まで、戦士の命を守る鎧は様々です。どの鎧を選ぶかは戦士の自由。どう選択をするのか、選択を間違えばどうなるのか・・・

子どもたち自身の経験から学び、また周囲の助言・アドバイスに耳を傾け、处世術を養いながら、やがて戦士となり、人それぞれの鎧を選び戦さに挑んでいく、これこそまさしく自立への道程なのではないでしょうか。

私たち自立援助ホームのスタッフの存在は、その道程の中にあってこそ活かされると、私は思いたい。

そして、自立援助ホームは希望を生み出す砦であってほしいのです。

わだちの家に籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
10月	人数		1		2	
11月	人数		1		2	
12月	人数			1	2	

※全員男子です

わが家の子ども達

R太：就労は安定し、原付の免許も取得。貯金も着実に増えています。

W太：やや危なっかしいものの就労を継続し、内心の葛藤と闘いながらゆっくり前進中です。

b男：入居当初はいろいろありましたが、スーパーの仕事が本人に合ったのか、見違えるように安定しています。

つぼみの家に籍数（H27年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20歳 以上
10月	人数		1	1	2		
11月	人数		1	1	2		
12月	人数		2		2		

※全員女子です

わが家の子ども達

C子：無断欠勤を繰り返した勤務先を解雇され、不安定な生活が続いています。

E子：家族が受入れの意思を示したからか、すっかり就労の意欲をなくし家族のもとに帰って行きました。

F子：軽はずみな行動から少し怖い思いもしましたが、最近は就労も安定し、少しは成長したような気がします。

I子：仕事は順調ですが、社交的すぎる性格ゆえか交際関係の派手なのが心配です。

J子：入居早々に無断外泊を繰り返し、再度兎相に戻って行きました。

K子：クリスマスイブに入居しました。年明けに求職活動を開始します。

10～12月のわだちの家とつぼみの家

10/01 全自協滋賀大会に川口とつぼみの
～02 家の平山ホーム長、アフターケアの
田中職員が出席しました。

毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン

11/06 里親支援センターなでしこの研修会
に川口が参加しました。

11/06 和歌山県児童養護施設協議会の常任
委員会に川口が出席する。

11/19 日本子ども虐待防止学会新潟大会に
～21 川口が参加しました。

11/30 児童相談所の現況調査（わだちの家）。

12/04 和歌山県児童養護施設協議会の職員
研修に川口、田中・尾崎職員が参加。

12/10 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の
～11 県外施設見学に田中・上西職員が参加。

12/15 和歌山県児童養護施設協議会の常任
委員会に川口が出席する。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・
ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき
誠にありがとうございます。

- 10月1日より12月31日までの寄附金
- 10月1日より12月31日までの寄附物品
和歌山県更生保護女性会様、
フードバンク和歌山様、海堀崇様、
匿名希望様
- 10月1日より12月31日までの援助基金
山本彰宏様、片岡啓様、川端貞喜様
匿名希望様

○援助基金会計報告（10/1～12/31）

収入の部

援助基金 27,000 円
受取利息 16 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 550 円

12 月末残高

277,135 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

いつもこの時期に云っていることですが、わだちの家を開いて8度目のお正月をつつがなく迎えることができました。

これも多くの皆様に支えていただいたのことと、改めて深謝いたします。

こうして元旦にわだちの家の事務室で、通信原稿をしたためていられるのは、平和な証です。特に今年は、入居している子どもたちが全員就労していて、課題はあるもののとりたてて問題がないのが有り難いです。

女子の方（つぼみの家）は、なかなかその境地に至っていませんが、開設して2度目のお正月ではそれも無理からぬものと、言い訳させてください。

とはいえ、春になれば美しい花を咲かせる希望には事欠かないのですけれどね。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻く状況などもこの「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

（援助基金のお願い）

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち